

# 設立 10 周年記念誌



特定非営利活動法人 日本防災士会香川県支部

## 香川県防災士会

## 阪神・淡路大震災の教訓から防災士は誕生しました。

災害からの被害を最小限にとどめる、  
地域防災力の担い手が「防災士」です。

阪神・淡路大震災では、家屋の転倒や家具の転倒の下敷きとなった人々の約 8 割を家族や近隣住民が救助しました。こうした経験を教訓にして生まれたのが、地域の防災力の担い手となる防災士です。

地域住民の一人ひとりが、防災と減災の知識や技能を身に着けて、災害に遭ったときには、地域の人々が協力しあって被災した人を救助したり、火災の初期消火等に努め、被害を最小限に食い止め、地域全体“生き延びること”が重要です。

地域自治体と連携した防災意識の啓発活動に、  
防災士の活躍が期待されています。

いま、多くの地方自治体では防災士の養成が地域防災力向上に有効であると認識され、これまで約 400 の地方自治体が公費を持って防災士の養成に取り組んでいます。また、地域の防災活動のリーダーとして、地方自治体が委嘱する地域防災コーディネーターなどに、防災士が指名されたり、日本防災士会との防災協定締結の事例も増えております。

さらに、多くの地方自治体が防災士の活用を進めており、防災訓練はもとより、市民の防災意識啓発についても防災士の役割が期待されております。

## はじめに



平成 19 年 4 月に香川県内の防災士 13 名で設立準備委員会を設けて、同年 8 月 23 日に日本防災士会の承認を受けた。同 29 日に日本防災士会の活動理念に基づき、県民の減災を目的に「事前対策と地域に根差した防災士」を目標に設立総会を開催し、全国 37 番目の支部として香川県支部（香川県防災士会）が設立された。

設立当初は県民への減災に関する啓発活動が主体となっていたが、平成 21 年度からは高松地方気象台との継続的な業務打ち合わせ会、香川大学危機管理センター（現四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構）が開催する香川地域継続検討協議会勉強会、香川県主催の防災関連シンポジウムや各種団体の開催する研修会、講演会等に積極的に参加し、自組織としてもスキルアップ研修を実施する等、会員の知識、技術の向上を図ってきた。

平成 24 年度には会員が 100 名を超えたことから、より一層地域に密着した活動を目指して各部会、各種専門部会を設置すると共に県内を 7 地区に区分して支部を設立し、より地域に根差した活動を推進した。

同時に行政機関、社会福祉協議会、日本赤十字社等各関係団体と連携し、避難訓練、避難所開設訓練、DIG（災害図上訓練）、HUG（避難所運営ゲーム）、各地区の防災マップ等の作成支援等々を継続的に実施した。平成 24 年度からは香川県教育長から学校防災推進会議委員と学校防災アドバイザーの委嘱を受け、さらに香川県知事からは香川県自主防災活動アドバイザーを委嘱され、以降要請に応じて会員を講師として送り込んでいる。

一方で、行政機関が養成した防災士を継続的に教育支援することを目的として、行政機関と「防災士の継続教育支援に関する協定書」を締結した。また平成 26 年度に総務省から「地区防災計画」の策定が各地方公共団体に求められたことから市・町、自治会、地域コミュニティと協定を締結し地区防災計画策定支援を実施する等、継続的に地域防災力の向上を図っている。

平成 29 年度には全国の日本防災士認定者も 13 万人を超え、防災白書に掲載されるようになる等その存在感も高まり、国会でも防災士の活用について取り上げられるようになった。当会員も平成 29 年 10 月現在で 309 名となり防災士会に対する期待はますます高まってきている。

今後も引き続き日本防災士会、行政機関・各種団体との連携を強化し、ご支援とご協力を賜りながらより一層地域に根差した活動を継続してまいります。そして県民から頼られる防災士会として地域の減災に貢献してまいります。

平成 29 年 11 月

特定非営利法人日本防災士会 香川県支部

香川県防災士会会長 久保 雅和

## 日本防災士会会員の活動理念

- 第1 日本防災士会会員（以下「会員」という）は、地域防災力の向上に努め、防災協働社会の実現に寄与することを活動の基本理念とする。
- 第2 会員は、地域の防災活動に参画し、災害の事前対策、応急対策（復旧・復興活動を含む）等、地域の防災活動計画の策定・実施に関し、指導的役割を果たすものとする。  
そのために、次の事項に積極的に取り組むものとする。
  - 1 会員相互のネットワークを構築し、協力関係を確立すること。
  - 2 地域防災活動のリーダーにふさわしい防災知識・技能の研鑽に努めること。
  - 3 自治体との緊密な連携を図ること。

**【 助けられる人から助ける人へ 】**



### 日本防災士会理事長挨拶

特定非営利法人 日本防災士会  
理事長 松尾 好將

日本防災士会・香川県支部の設立 10 周年、誠におめでとうございます。これまでの会員の皆さんの地道な活動に対し、深甚なる敬意を表します。

さて、南海トラフ地震等巨大地震が、いつ発生してもおかしくないといわれる緊迫した状況の中で、日本防災士会・本部及び支部の最重要課題は、当会が掲げる活動理念の具現化、すなわち、地域の「防災コミュニティづくり」を急がなければならないということであり、具体的には、現在、日本防災士会が最重要施策として取り組んでいる地区防災計画の推進を加速させることであります。

その概要ですが、まず体制については、本部に地区防災計画推進本部（本部長・理事長）を設置し、全国を 8 ブロックに分け、各ブロックに地区防災計画推進担当理事、各都道府県支部に地区防災計画推進部長を置いて、相互に緊密な連携体制を確立する。

また具体的対策としては、各支部に最低 1 か所以上、推進モデル地区を選定し、当該モデル地区において、想定される災害の分析、それに基づく防災計画の策定、各種訓練の実施等について、支部主導による継続的な支援を行うというものであります。

支部における地区防災計画の推進の第一歩はモデル地区の選定であり、まずは当該地区の防災コミュニティづくりをめざし、その道筋の目途がつけば、更に次の地区を指定し、順次、支部内の防災コミュニティを拡大していくという計画であります。

皆様のご理解とご協力をいただきながら、一人でも多くの地域住民の方を災害から守ることができればと考えています。

# 目次

- ・ 祝辞紹介 . . . . . P4～7
- ・ 組織 . . . . . P8
- ・ 関係機関との連携 . . . . . P9
- ・ 10年の歩み . . . . . P10～11
- ・ 関係機関との継続事業 . . . . . P12～17
- ・ 活動年表 . . . . . P18～35
- ・ 各支部及び部会の活動 . . . . . P36～43
- ・ 報道関係取材等 . . . . . P44
- ・ 歴代役員名簿 . . . . . P45
- ・ 記念誌発刊にあたり . . . . . P46



## 香川県防災士会設立 10 周年に寄せて

香川県知事 浜田 恵造

香川県防災士会が設立 10 周年を迎えられるとともに、貴会の足跡を記した 10 周年記念誌を刊行されましたことを、心からお慶び申し上げます。

香川県防災士会は、防災士の資格を持つ県内の有志の方々により、平成 19 年 8 月に設立されて以来、研修会などを通じて、防災士としての知識や技術、技能の研鑽に努めてこられました。また、地域の自主防災組織等からの要望に応えられ、各種防災訓練の実施や研修会への講師の派遣、地区防災計画の策定支援など、様々な事業に取り組まれるとともに、平成 28 年度からは、香川県自主防災活動アドバイザー派遣事業にご協力いただくなど、地域の防災力の向上に大きく貢献されています。これも偏に、久保会長をはじめ歴代の役員や会員の皆様方のご熱意とたゆみないご努力の賜物であり、深く敬意を表します。

南海トラフ地震の今後 30 年以内の発生確率が 70%程度と高まる中、近年、東日本大震災や熊本地震など、多くの尊い命が犠牲となる大規模地震が各地で発生しており、香川県においても、海溝型、直下型を問わず、いつ発生してもおかしくない状況にあります。また、地球温暖化の影響で、局地的な豪雨や竜巻の発生のほか、台風の大型化も懸念されています。

こうした中、香川県では、「新・せとうち田園都市創造計画」に沿って、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の 3 つの柱を軸に各種施策を推進しており、とりわけ、「信頼・安心の香川」では、「周到な防災・減災対策で災害に備える」ことを重点施策の 1 つに掲げ、「香川県南海トラフ地震・津波対策行動計画」などに基づき、県民の皆様が安全で安心して暮らせるよう、ハードとソフトの両面で総合的かつ計画的に防災・減災対策を進めています。

しかし、大規模災害になればなるほど行政が行う「公助」には限界があり、自らの安全は自らで守る「自助」、地域の安全は地域の住民が助け合って守る「共助」を進めることが、被害を少なくし、災害に強いまちづくりにつながります。

香川県では、今後とも、市町や消防、警察をはじめとする防災関係機関との連携を図り、防災・減災対策のより一層の充実に努めてまいりますので、「共助」において中心的な役割を担う皆様方には、豊富な専門知識と蓄積されたノウハウにより、防災・減災社会の構築に向けて、引き続きご尽力いただきますようお願いいたします



## 香川県防災士会設立 10 周年に寄せて

国土交通省四国地方整備局 香川河川国道事務所  
所長 宮本 馨

特定非営利活動法人香川県防災士会が設立 10 周年を迎えられ、記念誌が発行されますことを心からお祝い申し上げます。

皆様方におかれましては、香川地域の防災リーダーとなるべく、香川県防災士会を設立し、会員相互の協力のもと専門的な知識・技能の研鑽を積み重ねられ、地域や職場の防災力向上に多大な貢献をされていることに、深く敬意を表します。

我が国は、地理的・地形的条件から自然災害が毎年のように発生しており、昨年は熊本地震、北海道・東北豪雨、今年も 7 月に九州北部豪雨により甚大な被害に見舞われました。香川県においては、瀬戸内海性気候に属し年間を通じて降水量も少なく、全国的にも災害の少ない地域とされていますが、近年、顕在化しつつある気候変動等の影響による豪雨の頻発、激甚化や渇水の増加、また、懸念されている南海トラフ巨大地震の発生に備えた対策が急務になっています。

このような中で、香川河川国道事務所では、地域の安全・安心の確保や地域の発展の支援のため、土器川の河川改修事業や国道 11 号、国道 32 号等の道路事業、国営讃岐まんのう公園事業の社会資本整備を進めています。

しかし、自然災害に対しては、施設整備等のハード対策だけでなく地域の特性や課題に応じて、ソフト対策を柔軟に組み合わせて、「自助・共助・公助」に隙間のない取組が必要です。とりわけ防災士の皆様方は、「自助・共助」の中心的役割を担っており、地域連携のもとで防災意識の啓発やハザードマップ作成支援、避難訓練等の地域防災活動は、地域にとっては不可欠です。

このため、土器川の大規模氾濫発生時の対応策を検討する「土器川における水害に強いまちづくり検討会」において、香川県防災士会の皆様には、平成 25 年度から 4 年間をかけて住民目線に立った地域防災力の向上や住民と行政の地域連携の対応策をとりまとめるために、地域防災活動のリーダーとしてワークショップや検討会に参加して頂きました。この検討内容は、一昨年の関東・東北豪雨を受け、国土交通省が策定した「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づき、土器川氾濫域の市町長等がとりまとめた「土器川の減災に係る取組方針」に余すことなく反映し、水防災意識社会再構築の取組を推進しているところですので、引き続きご協力をお願いします。

そして、今後とも、皆様方が地域社会に密着した御活躍をとおして、地域、職場の安全、防災・減災対策の更なる強化が図られることを期待いたします。

結びにあたり、香川県防災士会の益々の御発展、並びに会員の皆様方の御健勝、御多幸を祈念し、記念誌発行のお祝いの言葉といたします。

## 香川県防災士会設立 10 周年を祝して

国立大学法人香川大学 学長 笥 善行

香川県防災士会設立 10 周年に際しお祝いを申し上げます。

香川県防災士会は地域住民および関係諸機関との連携を深め、減災対策を推進する目的で設立されました。最近の度重なる自然災害や人為的災害を見るにつけ、「防災」は事実上不可能に近いものの、事前の災害対策で 80%は軽減できるとされ、「減災」対策の重要性は明らかであります。

香川大学では学部学生の特別教育プログラムの一つとして、「防災士養成プログラム」を開講しております。1 年次に防災士関連科目を履修した学生は防災士資格試験の受験資格を得ることができます。また、このプログラムを選択した学生たちは、香川大学防災士クラブを結成し、本防災士会と連携しまして学内外の防災活動にボランティアとして参加しております。一方、大学院生及び社会人を対象とした「四国防災・危機管理プログラム」も開講しており、地域の行政や企業、学校や医療の現場の方々の中から多数の防災士を養成してきました。平成 21 年度から 28 年度までに防災士資格試験に 335 名の学生、824 名の社会人が合格され、多数が貴会に所属し活躍されていることを頼もしく思います。

今後四国で想定される大規模災害の中では特に南海トラフ地震がクローズアップされておりますが、昨今の地球温暖化に伴うと思われる異常気象による降雨・洪水災害も各地で甚大な被害をもたらしており、ため池の多い香川県においても他人ごとではない危険が迫っていると思われまます。本防災士会は自主防災組織を基本とした各地区の防災計画の策定を支援されており、地域住民を交えた各種の訓練や研修計画の立案などを行ってこられました。21 世紀社会において、「プロボノ (pro bono publico)」の役割が欠かせないものになっている中、本防災士会は益々注目される存在となっております。本会の益々のご発展を祈念いたします。

## 香川県防災士会設立 10 周年を祝して

高松地方気象台 台長 若林 晶彦

香川県防災士会設立 10 周年おめでとうございます。

近年、雨の降り方が局地化、集中化、激甚化しています。香川県では、ここ数年は気象に起因する大きな災害は幸いにも発生していませんが、全国的にみれば毎年のように台風や局地的な豪雨による被害が相次いで発生しています。また、近い将来発生が懸念されている南海トラフ地震への備えも必要です。

気象台では、防災気象情報や津波警報等の改善を行い、自治体の防災活動や住民の自主避難の判断を支援しているところです。自然災害から命を守るためには、住民一人一人が防災気象情報を活用して適切な判断を行い、早め早めに行動することが大切であり、住民への防災知識の普及や防災意識の向上が必要です。

地域において防災と危機管理のリーダーとなる「防災士」の役割はとても重要となっております、いまや欠くことのできない存在となっております。地域の安全安心を守るため、貴会のより一層のご支援を賜りますようお願いいたしますとともに、香川県防災士会のますますのご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 10周年おめでとうございます

日本赤十字社香川県支部 事務局長 川部 英則

香川県防災士会設立 10 周年おめでとうございます。

平成 19 年、さぬき荘で開催された設立総会、出席された会員は 10 名余り、来賓が香川県議会副議長と私の 2 名でした。役員と来賓が雛壇に座ると、一般席は 5, 6 名だったと思います。正直、この先大丈夫かなあと心配に思ったものでした。

その香川県防災士会も、現在では会員数も 300 名を超え、頼もしい存在になりました。設立当時、受験するにしても愛媛県か大阪府へ行かないと受験できないという状況でしたが、香川大学のカリキュラムに取り入れられたことなどもあり、急速に受験者、合格者が増えました。今や、県内の防災士資格取得者は 1,000 名を遥かに超えると伺っております。この方たちの力をフル活用していくことが、今後の香川の防災力向上に欠かせないものと考えます。

日本赤十字社も、今年が誕生 140 年という節目の年にあたります。防災機関の一つとして、これまでの災害救護の経験を生かしながら、皆様方と力を合わせて、万が一に備えてまいりますので、これまで同様、皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

10 周年を契機に、香川県防災士会のますますのご発展と、久保会長様をはじめ会員の皆様方のさらなるご活躍を心から祈念申し上げます。

## 設立 10 周年に寄せて

社会福祉法人香川県社会福祉協議会 会長 天雲 俊夫

このたび、香川県防災士会が設立 10 周年という節目の年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

香川県防災士会におかれましては、平成 19 年の発足以来、「防災訓練」、「啓発活動」、「学校防災アドバイザー」、「地区防災計画策定支援」等の活動を通して、地域住民の防災意識の向上に多大なご尽力をいただいておりますと、深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

これらの取組みを推進していくためには、平常時の生活課題・福祉課題が、発災時の地域で課題となることを住民自らが意識し、実践していくことが不可欠であり、貴会が堅実に推し進めてきた、積極的な地域への参加と、地区防災計画等への提言は、当協議会はじめ防災関係機関にとって誠に心強いものであります。

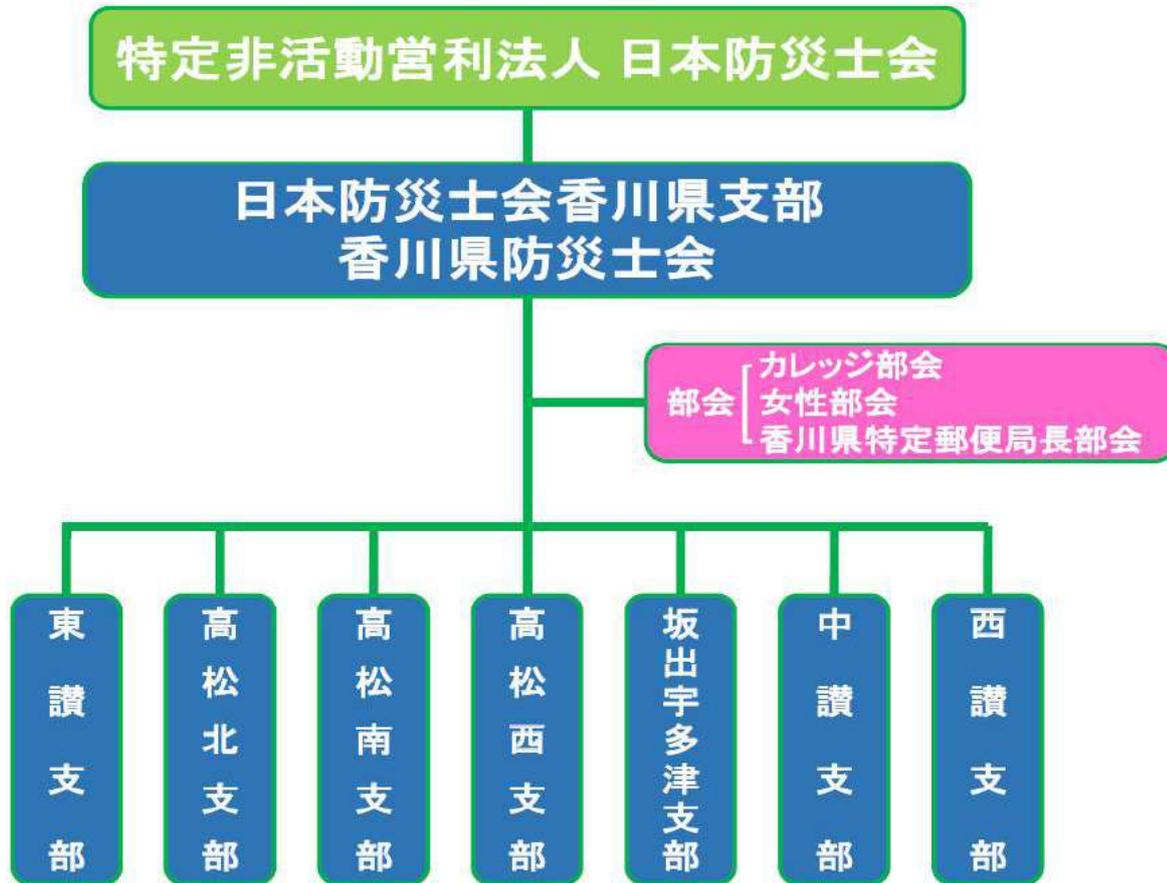
さて、香川県社会福祉協議会では、近年多発する自然災害に対して、全国組織のネットワークを活かした支援を行う一方、県内においても、福祉関係団体と連携し、平時から住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりの推進と、災害時要援護者を支援する福祉人材の確保や支援受入れの仕組みづくりに努めるなど、災害発生時の支援体制づくりにも取り組んでいるところです。

今後とも、誰もが安心して暮らせる地域の実現に向けて、ご支援・ご協力くださいますようお願い申し上げます。

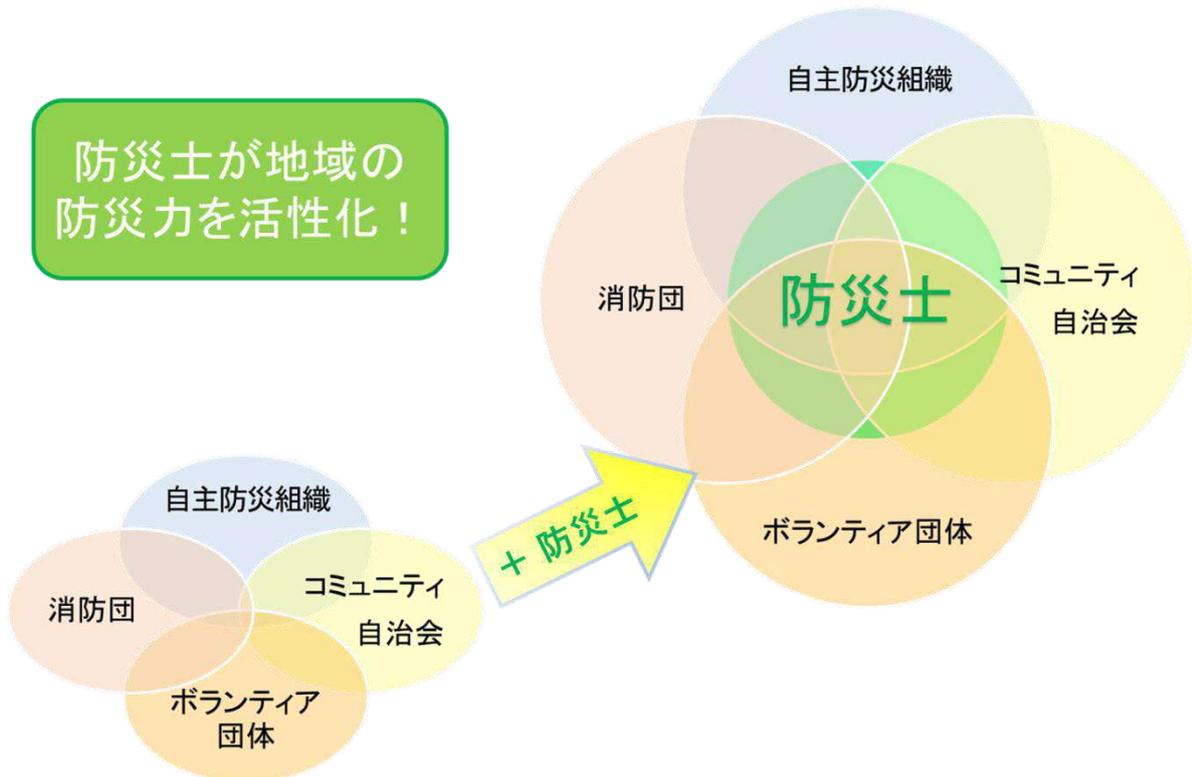
結びに、10 周年の節目を佳節とされ、住民の防災・減災意識の更なる向上についての素晴らしい取組みを継続していただきますようお願い申し上げますとともに、貴会の益々のご発展をご祈念申し上げます。

組 織

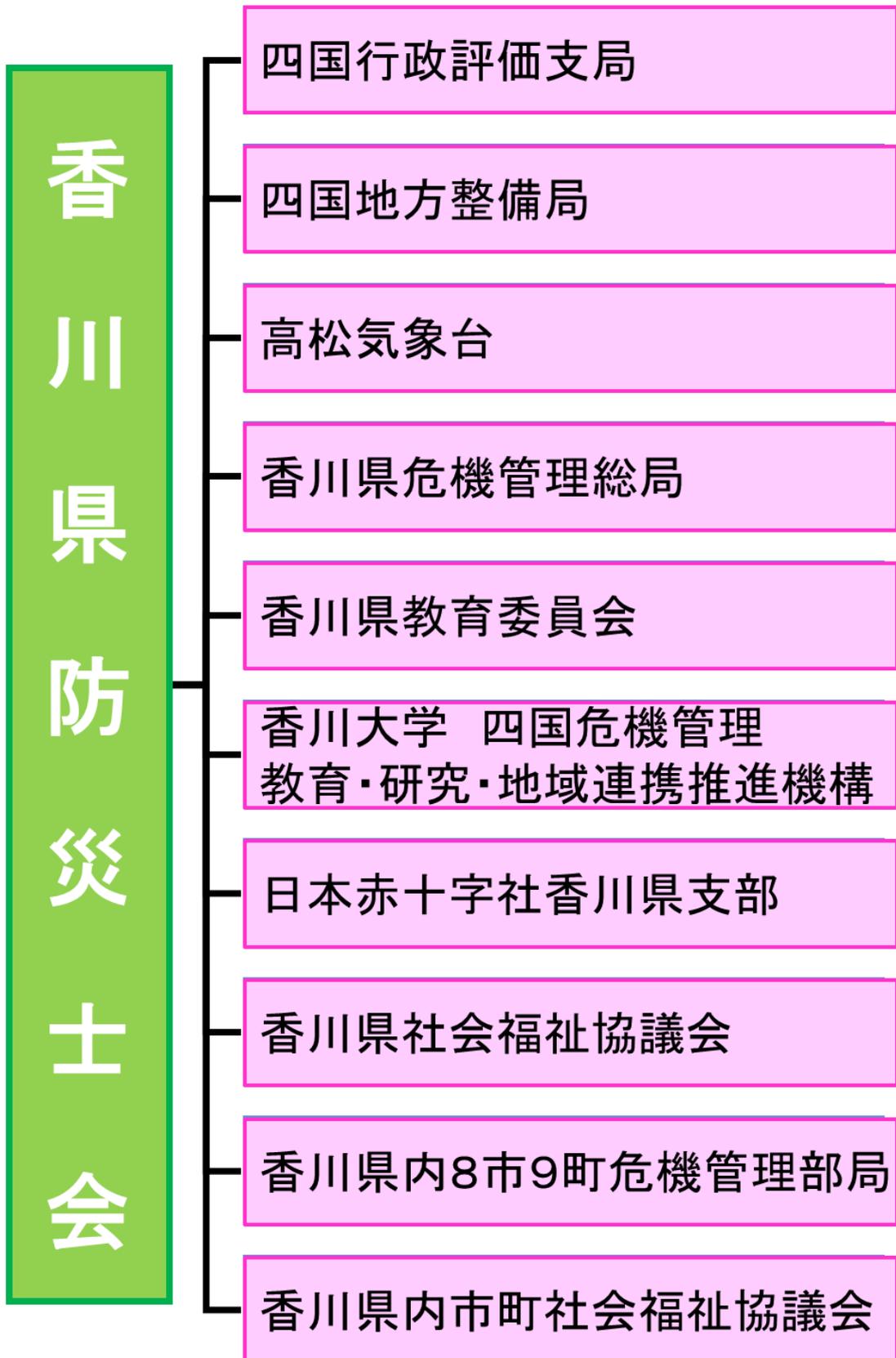
※平成 29 年 11 月現在



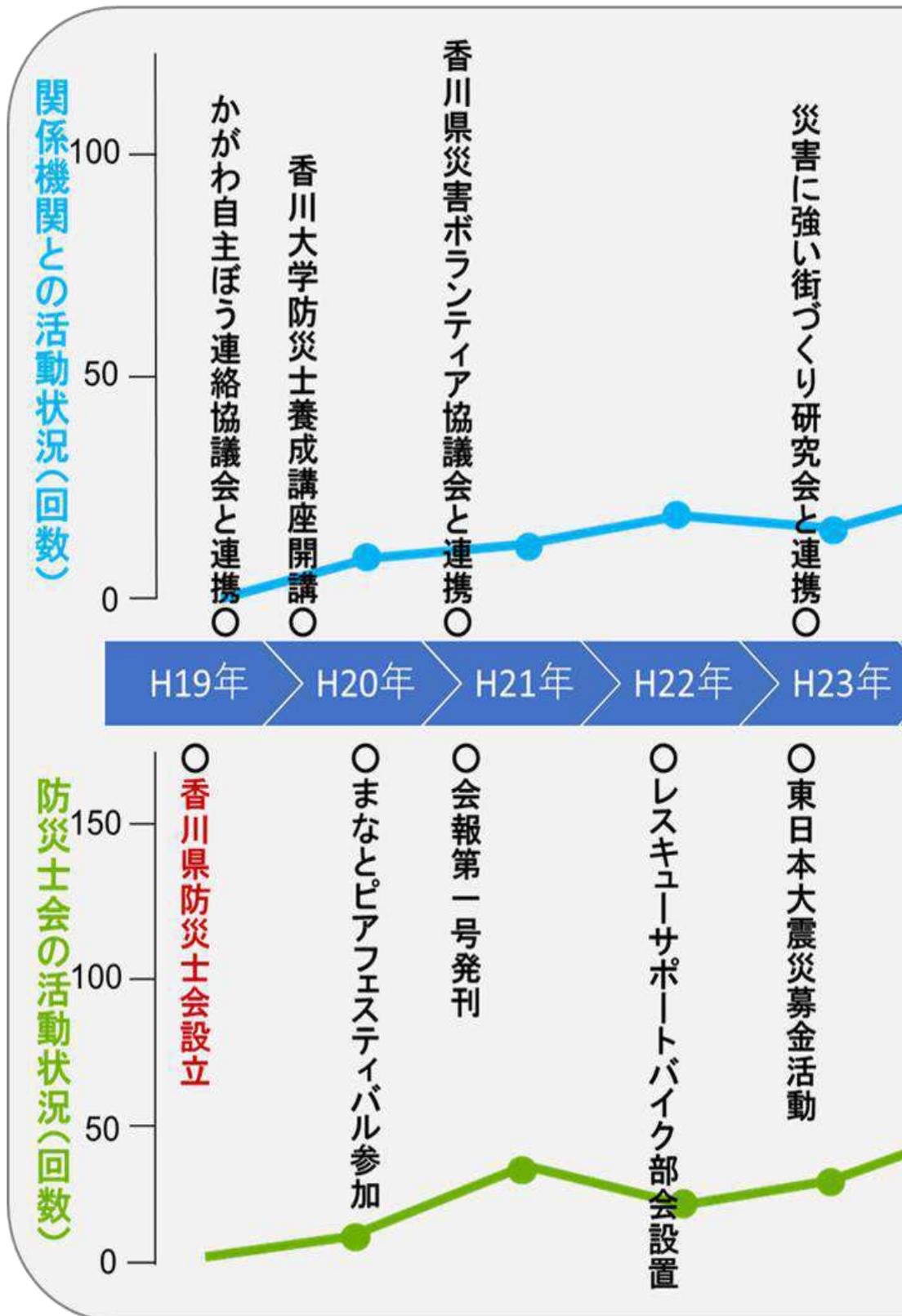
防災士が地域の  
防災力を活性化！

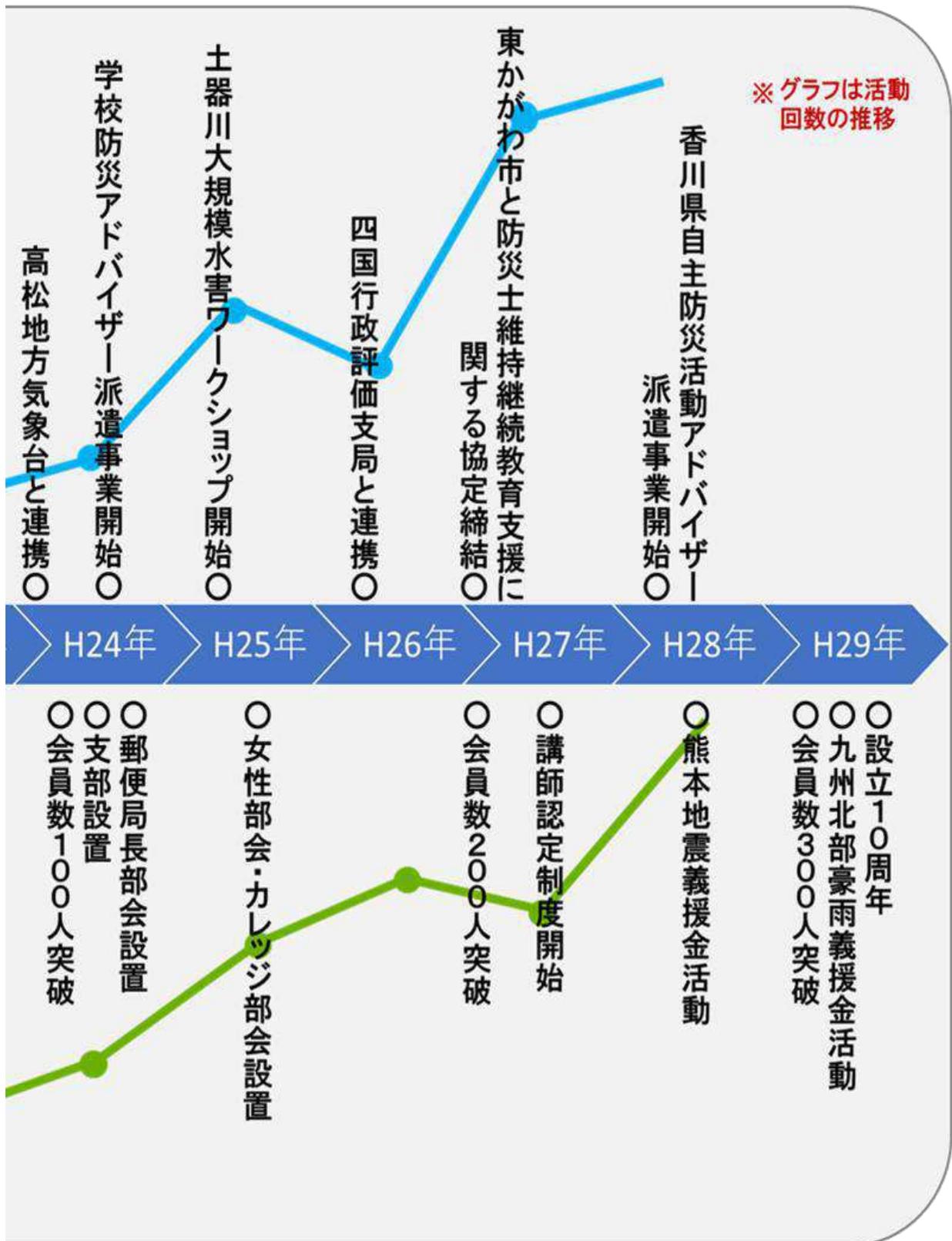


関係機関との連携



## 10年の歩み





## 関係機関との継続事業

### 学校防災アドバイザー派遣事業

東日本大震災を受け文部科学省から各学校(園)において防災計画や危機管理マニュアル等の整備や避難訓練等による防災体制の整備が求められた。これを受け香川県教育委員会ではより実効性のある避難訓練の実施や新たに公表された南海トラフの巨大地震モデルによる被害想定への対応が課題として取り上げられた。

香川県教育委員会は外部の専門家を学校防災アドバイザーとして学校に派遣し、学校間及び地域住民・保護者・関係機関との連携強化や危機管理マニュアルの作成・検証に関する指導・助言を行い、組織的な学校の安全管理体制の構築・強化を行うこととした。そのために、学校を含めた地域全体としての安全水準の向上を図ることを目的として、平成 24 年度に学校防災推進会議(香川大学、香川県防災士会、香川県危機管理課、高松消防局、幼・小・中・高・特別支援学校、PTA 代表、東部・西部教育事務所の各委員)を設置して学校防災アドバイザー派遣事業として取り組むことを決定した。この事業を実施するにあたりアドバイザー全員を対象に事前説明会を行い、統一した見解を持てるようにした。平成 26 年度からは香川県技術士会、高松地方気象台もこの事業に参加する事になった。

これまで、平成 24 年度に 53 校(幼・小・中・高(園))、平成 25 年度に 43 校、平成 26 年度 37 校、平成 27 年度に 25 校、平成 28 年度に 34 校で実施し、特に平成 24 年度は小・中・高等学校・特別支援学校の管理職を対象に HUG(避難所運営ゲーム)の講習会を東讃地域 41 名、西讃地域 57 名、中讃地域 94 名、高松地域 107 名で実施した。

またアドバイザーのスキルアップを目的に、平成 24 年度の実施報告を受けて平成 25 年度から各学校(園)等からアドバイザーに対する評価を頂くことにした。

主なアドバイス項目として、事業開始当初は学校の危機管理マニュアルの点検や避難訓練等が主体となっていたが平成 26 年度からは災害に強い学校施設の在り方、また平成 28 年の熊本地震の被害を踏まえた大規模災害時の学校施設の避難所開設に関する助言を行ってきた。

防災士会はこの事業を通じて、地域、学校に継続して支援ができた。地域防災力の向上に寄与することを目指していきたい。



## 土器川大規模水害ワークショップ

近年の地球温暖化による気候変動に伴い全国で異常気象が続き国の管轄する河川で大規模水害の発生が懸念されることから香川県内では土器川流域(中讃地区)で平成 25 年度から、住民参加型の「災害に強い街づくり検討会・ワークショップ(以下WS)」を実施してきた。

構成団体として四国地方整備局香川河川国道工事事務所、香川大学、香川県、高松地方气象台、関係市町に加え、香川県防災士会も参加する事となった。

平成 25 年度「土器川大規模水害に適応した対策検討会」が開催され、土器川全区間を対象に関係 3 市 3 町、土器川氾濫区域住民の 70 名でWSを実施し、防災士 14 名がテーブルリーダーを務めた。

平成 26 年度から平成 27 年度はモデル地区を選定し具体的な対策を示す「行動計画(案)」を策定するため関係行政と住民を対象に意見集約のため 8 回のWSを実施し、防災士 12 名がテーブルリーダーを務めた。

平成 28 年度は土器川大規模氾濫における減災対策として「応急対策期のタイムラインとそのまとめ・住民目線による重点対策」をテーマに「行動タイムラインの作成WS」を実施し防災士 12 名がテーブルリーダーを務めた。

会員はこれらWSのテーブルリーダーとして活動するなかで、意見集約の仕方やWSの円滑な進行方法を身に付けると共に、住民目線ならではの意見は大いにスキルアップにつながった。今後、各地域での災害対策の検討会やWSにおいて会員の活躍が期待される。

### 【活動実績】

平成 25 年	5/14	第 1 回土器川大規模水害検討会	5/31	土器川大規模水害模擬WS
	7/28	土器川大規模水害第 1 回WS	8/31	土器川大規模水害第 2 回WS
	10/6	土器川大規模水害第 3 回WS	12/19	第 2 回土器川大規模水害検討会
平成 26 年	2/24	第 3 回土器川大規模水害検討会	8/7	水害に強い街づくり検討会
	10/17	水害に強い街づくり検討会	12/18	水害に強い街づくり検討会
平成 27 年	8/22	土器川大規模水害検討会	8/29	土器川大規模水害第 4 回WS
	11/7	土器川大規模水害第 5 回WS	12/19	土器川大規模水害第 6 回WS
平成 28 年	10/29	土器川WS 事前連絡会	11/6	土器川洪水対策検討会
	11/19	土器川大規模水害第 7 回WS	11/23	土器川大規模水害第 8 回WS
平成 29 年	1/5	土器川洪水対策検討会	2/17	土器川洪水対策検討会



## 香川大学 防災士養成講座

香川大学では、平成 20 年度より防災士養成講座が開講実施しており、毎年当会より非常勤講師として講師派遣を行っている。初年度は学生、一般併せて 100 名を募集して開講し、平成 21 年度から学生講座と一般講座を分けて開講することになった。

学生の受講生は毎年増加しており、ここ数年は 200 名を超える人気講座となっている。また一般講座では、申込み定員を一日でオーバーする状況が続いている。特に一般対象の講座では、平成 22 年より香川県、県内各市町から、受講料の一部または全額の補助金が出るようになった（各市町村別に条件有）。これは、災害対応は行政だけで行うものではなく、住民自身も災害について学び、備える必要があるとの考えが定着してきたことから、各市町が積極的に地域の防災リーダー（防災士）を輩出しようとする取り組みである。またこのことにより、香川県の防災士認定者は年々増加し、1852 名（平成 29 年 9 月末現在）となっている。しかし、学生は県内にとどまる人数も少なく、一般受講者も認定を得るだけでその後の活動に活かされていないことが懸念されている。当会としては認定者には是非ともご入会頂き、共にスキルアップを図り地域に根ざした防災活動ができるように努めたいという思いである。

養成講座は今後も引き続き香川大学と連携しながら、多様化する災害に合わせた講座を行っていききたい。

### 【香川大学防災士養成講座】

- ・対象者と受講期間（平成 29 年度実績）

学生対象 毎年 4 月～翌年 2 月 毎週木曜日（幸町キャンパス）

一般対象 毎年 10 月～翌年 2 月 月一回土曜日（林町キャンパス）

- ・講座内容（学生 20 講座・一般社会人 23 講座）

当会担当講義：「防災気象情報の知識と活用—公的機関による予警報—」

「緊急救助技術を身につける」

「身近でできる防災対策」



## 香川県自主防災活動アドバイザー派遣事業

平成 28 年度から県、市町、アドバイザー等が連携して、自主防災組織未結成地域等に対して広域化や組織結成・運営の助言や指導等を行うことで、香川県の地域防災力を高めることを目的として、「香川県自主防災活動アドバイザー派遣事業」が開始された。

アドバイザーとしては自主防災組織の組織・運営に関する知識と活動支援の能力を有する者で、かがわ自主ぼう連絡協議会、香川県防災士会、香川大学からの推薦者 39 名が香川県知事からの委嘱を受けた。

### <アドバイザーの活動内容>

- ・ 自主防災組織等からの相談に対する指導や助言
- ・ 自主防災組織未結成地区に対する組織化支援
- ・ 自主防災組織等が開催する防災講演会や研修会等での講師派遣
- ・ 市町が開催する自主防災組織活性化や広域化のための研修会での講師派遣

### <この事業の対象となる団体・事業者>

- ・ 防災活動に取り組み、又は取り組もうとする団体（自主防災組織、自治会、市町など）

### <派遣実績>

- ・ 延べ 17 回、派遣人数 22 名

### <派遣事例>

- ・ 自主防災連合会からの自主防災組織作り
- ・ 私立学校関係、事業者、商工会議所等からの講演依頼等  
（例）講演会、防災マップ、避難所マニュアル、DIG 等



香川県自主防災活動アドバイザー委嘱式

## まなとピアフェスティバル（坂出市）

坂出市生涯学習課が毎年開催している、地域の大人みんなで子供を育てることを目的とする運動の一環のイベントです。まなとピアとは、学ぶ人と理想郷（ユートピア）からの造語です。様々なプログラムが開催される中で、防災士会は防災関連の啓発を趣旨とするブースを毎年出展させていただき防災活動の重要性を参加者に向けて啓発してきました。

具体的には、避難時の持出し品展示、災害ボランティア時の写真展示、ロープワーク、三角巾を使用した応急手当、アンケート等、毎年様々な工夫を凝らして取り組んできました。

当フェスティバルへの参加のきっかけは、当時（平成 19 年）設立直後であった香川県防災士会は知名度も低く、認知度を高めるために広報活動として当時比較的会員の多かった中讃地区に的を絞り、公的イベントで無償参加できるものを会員で手分けして探しておりました。その中で、まなとピアフェスティバルに辿り着きました。早速事務局に問い合わせると締め切りを過ぎていたとの事でしたが、会の趣旨をご理解いただき、参加を承諾していただきました。以降毎年継続して出展させていただきました。

まなとピア出展によって、市の広報誌の取材、テレビ局の取材、ケーブルテレビの取材、地域FM局の取材等があり、当初目指していた認知度の向上にも大きく貢献できたのではないかと感じております。お世話になった各方面の方々に改めて感謝申し上げます。

開催事務局の意向で本来の公民館活動に戻ることになり平成 27 年度にて終了しましたが、今後もこのような機会があれば是非参加させていただきたいと考えております。



## 香川県ボランティア連絡協議会

平成 16 年の台風 16 号、23 号による水害を契機に、県内各地に災害ボランティアセンターが設置された。しかし、県内での災害ボランティアセンター運営は初めてのことであり、混乱する場面もあった。そこで、今後発生が懸念される風水害や地震などの大規模災害に対応できる体制作りが必要であることから、香川県社会福祉協議会、日本赤十字社香川県支部等が呼び掛け団体となり、平成 18 年 2 月に前身となる「香川県災害ボランティア協議会」が設立された。（平成 26 年より現名称に変更）

香川県防災士会は、平成 20 年からこの連絡協議会に参加している。「防災とボランティアのつどい」に参加し、防災士会ブースにて【事前の備えで被害の軽減】を目指して啓発を行っている。また、災害ボランティア関連研修会にも参加し、災害時のボランティアの役割や支援者になる場合だけではなく、受援者（被災者）になった場合に外的支援を受ける体制作りについても検討している。



## 高松气象台研修会

近年の地球温暖化に伴う大災害が多発している現状から、防災士として気象災害の基本を理解するために防災士会設立当初から勉強会を開始した。

初期は防災士会定期総会時に勉強会を開催していた。その後、気象庁から防災士会と堅密な情報共有及び連携が必要との連絡をいただいた。実施したテーマは「地震・津波」「注意報・警報の市町村ごとの発表」「新しい気象情報の提供」等。平成 24 年度から高松地方气象台と業務連絡打ち合わせ会を毎年実施することになった。近年のテーマは後述する。

また、講義形式だけでなく、气象台の施設の観測機器（ウィンドプロファイラー、雨量計、温度計等々）の現場見学や予報現場の視察も実施し、地域で活躍する防災士の活動を支援する実践的な研修会を実施している。

### <研修テーマ>

- ・平成 25 年度「特別警報を含めた防災気象情報の活用について」
- ・平成 26 年度「高松地方气象台が発表する防災気象情報」「新しいステージに対応した防災情報」
- ・平成 27 年度「最新の気象情報の変化～気象衛星 8 号・9 号の利活用について」
- ・平成 28 年度「新たなステージに対応した 防災気象情報の改善」



## 活動年表

青字 災害

緑字 日本防災士機構、日本防災士会関連等

※防災士制度発足のきっかけとなった兵庫県南部地震以降の国内の大きな地震及び香川県内の風水害等

- 平成 7年 1月 17日 兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）（死者 6,434 名、負傷者 43,792 名） M7.3
- 平成 12年 10月 6日 鳥取県西部地震 M7.3
- 平成 14年 7月 内閣府が『特定非営利活動法人日本防災士機構』を認証
- 平成 15年 10月 防災士第 1 号認証（防災士認証者数全国で 216 名）
- 平成 16年 7月 16日 新潟県中越地震（死者 68 名、負傷者 4,805 名） M6.8
- 平成 16年 8月 17日 台風 15 号被害（県内死者 5 名、負傷者 4 名、床上浸水 16 戸、床下浸水 391 戸）
- 平成 16年 8月 30日 台風 16 号被害（県内死者 3 名、負傷者 6 名、床上浸水 5,946 戸、床下浸水 15,643 戸）
- 平成 16年 10月 日本防災士会発足
- 平成 16年 10月 台風 23 号被害（県内死者 11 名、負傷者 30 名、床上浸水 4,119 戸、床下浸水 12,390 戸）
- 平成 17年 3月 20日 福岡西方沖地震（死者 1 名、負傷者 1,204 名） M7.0
- 平成 18年 2月 防災士認証全国で 10,000 名達成

### 平成 19 年度

- 4月 設立準備委員会設置
- 8月 香川県防災士会設立総会（会員数 13 名）
  - 基調講演『緊急地震速報について』
  - 高松地方気象台 防災業務課長 井高氏
- 10月 丸亀市職員研修『気象と防災』
- 11月 丸亀ロータリクラブ講演『地球温暖化と気象災害』  
防災士認証全国で 20,000 名達成
- 3月 香川自主ぼう連絡協議会と連携開始

### 平成 20 年度

- 5月 第 1 回香川県防災士会総会（会員数 25 名）
  - 香川大学防災士養成講座開始
- 7月 坂出市自主防災組織リーダー研修
- 8月 高松市鬼無町自治会『防災マップを作ろう』  
高松市屋島自治会講演会『防犯・防災』
- 9月 丸亀市防災講演会『台風・自然災害と地震』  
香川県社会福祉協議会『図上訓練指導者講習会』参加
- 10月 第 1 号会報発行
- 1月 香川県災害ボランティア協議会
- 3月 地域防災リーダー養成講座  
防災士認証者全国で 30,000 名達成



平成 20 年度総会



かがわ自主ぼう  
秋季研修会



スキルアップ 研修会  
担架搬送

## 平成 21 年度

- 5 月 第 2 回香川県防災士会総会（会員数 32 名）
- 6 月 スキルアップ研修『台風・自然災害と地震』  
高松市鬼無地区自治会「防災マップ」現地調査
- 8 月 高松市鬼無地区自治会第 2 回現地調査  
丸亀市岡田連合自治会防災講演会  
満濃町福祉協議会 命見守り隊 昭和南海地震調査  
丸亀市岡田地区生き生きサロン防災講演会『台風・自然災害と地震』
- 10 月 惨事ストレス研修  
高松市鬼無校区防災訓練  
岡山支部合同スキルアップ研修及び交流会『HUG・避難所運営ゲーム』
- 11 月 高松市鬼無地区自治会第 1 回防災街歩き  
丸亀市岡田校区防災訓練
- 12 月 高松市鬼無地区自治会第 2 回防災街歩き
- 2 月 高松市鬼無地区防災マップ作成  
スキルアップ研修『救急法』
- 3 月 坂出鉄工組合 HUG 研修



## 平成 21 年度総会

## 土居副会長挨拶





スキルアップ研修会

HUG



高松市鬼無地区

防災マップ作成支援

## 平成 22 年度

4月 第3回香川県防災士会総会（会員数 45名）

基調講演『津波について』

高松地方気象台防災業務課 地震津波防災官・小西氏、防災病無係長・山西氏

5月 丸亀市岡田コミュニティセンター祭り 防災士会啓発活動

6月 防災士スキルアップ研修（HGU 研修）

防災士認証全国で 40,000 名達成

7月 防災ボランティアコーディネーター研修

坂出市加茂小学校「防災マップ」

防災士会レスキューサポートバイク（RB）部会設置

8月 坂出市加茂小学校「防災マップ」

9月 RB 部会 香川県総合防災訓練初参加

坂出市王越小学校「防災マップ」

日本防災士会「身近な資機材を活用し救出・救助訓練の基礎を学ぶ」研修

- 10月 惨事ストレス研修会  
丸亀市飯山南コミュニティセンター防災マップ現地調査会  
坂出市職員 HUG 研修  
防災士会スキルアップ研修「状況予測型訓練」  
惨事ストレス研修「傾聴研修」  
坂出市王越小学校「防災マップ発表会」
- 11月 丸亀市飯山北ひまわりグループ講演会及び飯山南コミュニティセンター防災マップ  
坂出市自主防災リーダー研修 (HUG)
- 12月 坂出市加茂小学校「防災マップ」  
丸亀市飯山南コミュニティセンター防災マップ  
三木町防災講演会「身近で出来る防災対策～なぜ今、自主防災組織か」 ※以下、「①タイトル」  
丸亀市城辰小学校防災訓練  
三木町自主防災リーダー研修 (HUG)
- 1月 防災とボランティアのつどい  
善通寺市東部自治会防災講演「①タイトル」
- 2月 香川大学工学部 ネパールの防災について  
防災フェスタイン三木
- 3月 東かがわ市自主防災連合会防災講演「①タイトル」  
丸亀市川西地区自主防訓練指導

平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分東日本大震災 M9.0

(死者 16,278 名、行方不明 2,994 名、負傷者 6,179 名、家屋全壊 129,198 軒、家屋半壊 254,238 軒)



平成 22 年度総会



岡田地区自治会  
防災マップ作成支援



坂出市加茂小学校  
防災マップ作成支援

## 平成 23 年度

- 5月 第4回香川県防災士会総会（会員数 84 名）
  - 基調講演『東日本大震災被災地現場からの報告』
  - 高松市消防局予防課 課長補佐 岸本幸弘氏
  - 香川県防災士会 東日本義援金活動
  - 丸亀市飯山南コミュニティセンター研修（HUG）
- 6月 丸亀市飯山北コミュニティセンター講演会「①タイトル」
- 7月 坂出市府中町弘法寺地区自治会講演
  - 防災士トリアージ研修
  - 東かがわ市相生地区自治会連絡協議会講演「①タイトル」
  - 災害ボランティア研修
  - 坂出市自主防災リーダー研修
  - 自己完結型の緊急野営訓練

- 綾川町商工会青年部 HUG 研修指導
- 高松市東植田小学校実践型避難所訓練指導
- 8月 県職業訓練センター講演「台風・自然災害と地震・安全神話の崩壊」  
被災想定「実践避難所運営（HUG）」訓練  
丸亀市城辰小学校避難訓練
- 9月 坂出市自主防災リーダーDIG 研修会
- 9月2日 台風12号被害（死者3名、負傷者3名）
- 10月 丸亀市岡田地区防災マップワークショップ  
高松市太田南コミュニティセンター講演「身近でできる防災対策～風水害・地震」  
丸亀市岡田地区防災マップ第1回現地調査 ※以下、  
善通寺市東部自治会防災訓練 「②タイトル」
- 11月 丸亀市岡田地区防災マップ第2回現地調査
- 1月 防災とボランティアのつどい
- 3月 『災害時活動』研修（善通寺陸上自衛隊）
- 高松市弦打コミュニティ防災講演会「②タイトル」  
防災士認証全国で50,000名達成



平成23年度総会



東日本大震災募金活動

## 介護施設

### 避難訓練指導



#### 平成 24 年度

- 4月 第5回香川県防災士会総会（会員数 118名）
- 6月 香川県教職員対象（東讃・高松・中讃・西讃地区）HUG 研修  
高松市太田南コミュニティセンター講演会「風水害・地震にどう対応するか」
- 7月 坂出市横津地区講演会「地震に備える」  
善通寺市西部地区連合会講演会「②タイトル」  
香川県技術士会講演会講師「②タイトル」  
気象庁四国防災業務推進会議講師「自主防災活動・防災士とは」
- 8月 高松市教職員 HUG 研修
- 9月 東かがわ市防災訓練・講演会「台風・自然災害と地震・安全神話の崩壊」  
高松市国分寺北部校区防災訓練  
香川県・三木町合同防災訓練  
視聴覚障害センター講演会「地震・台風に備える」

- 高松市林小学校教職員 HUG 研修
- 10月 高松市太田南コミュニティセンターHUG 研修  
高松工芸高校講演会「地震だ～そのときどうするか」  
岡山県支部『災害時実動訓練』  
善通寺市東部公民館防災訓練
- 11月 高松市香西地区防災訓練  
坂出市加茂校区震災避難訓練  
観音寺市紀伊小学校防災訓練及び講演会「学校・自宅での地震対策」  
日本防災士機構防災士シンポジウム（松山市）「香川県防災士会の活動」
- 12月 香川短期大学看護学校講演会「地震・津波対策」  
香川県西部地区特定郵便局長部会研修会「地震について」  
香川県国際交流協会、外国人避難所訓練
- 1月 善通寺市防災講演会「身近で出来る防災対策」
- 2月 防災士認証全国で 60,000 名達成  
香川大学危機管理シンポジウム 地域防災力「防災士の活動」  
丸亀市土器東コミュニティ自主防災会 HUG 研修
- 3月 高松市弦打コミュニティセンター防災講演会「地震・津波対策」  
丸亀市革新懇防災講演会「地震だ～そのときどうするか」  
坂出市防災指導員専門委員に防災士会より 6 名任命



高松市立  
林小学校  
職員研修会 HUG



すぐにできる

防災講座

(香川大学連携)



香川県教職員対象

HUG研修

## 平成 25 年度

- 4 月 第 6 回香川県防災士会総会（会員数 145 名）  
基調講演「70 歳の高校生」 佐藤幸子氏 山下あき氏
- 5 月 第 1 回土器川大規模水害検討会  
土器川大規模水害模擬ワークショップ
- 7 月 丸亀市飯山北コミュニティセンター講演会「防災、事前の対策」  
スキルアップ研修・担架搬送訓練  
高松市東植田校区講演会「身近で出来る防災対策」  
高松市東植田校区 HUG 研修  
丸亀市岡田連合自治会講演  
土器川大規模水害第 1 回ワークショップ
- 8 月 高松市仏生山ため池決壊 DIG  
坂出市防災指導員委嘱  
土器川大規模水害第 2 回ワークショップ
- 9 月 土器川大規模水害第 3 回ワークショップ  
高松市十河自主防災会 HUG 研修  
中讃保健事務所講演会「身近で出来る防災対策」
- 10 月 さぬき市防災ボランティア HUG  
岡山県支部『救助救出訓練の基礎Ⅱを学ぶ』  
善通寺市東部校区防災訓練  
高松地方気象台合同スキルアップ研修「特別警報を含めた防災気象情報の活用について」
- 11 月 創価学会丸亀北支部講演会「風水害・地震対策」  
特定郵便局長会「地震について」  
高松市国分寺北部校区防災訓練  
三豊市防災気象講演会「防災士の活動」  
防災士認証全国で 70,000 名達成
- 12 月 第 2 回土器川大規模水害検討会  
スキルアップ研修・三角巾を用いた応急手当
- 1 月 中讃地区養護教員 HUG
- 2 月 高松市香西コミュニティセンター HUG 研修  
第 3 回土器川大規模水害検討会
- 3 月 宇多津町社会福祉協議会講演会「身近で出来る防災対策」



平成 25 年度総会



多言語情報伝達訓練  
外国人避難所訓練



防災とボランティア  
のつどい

## 平成 26 年度

- 4 月 第 7 回香川県防災士総会（会員数 167 名）  
勉強会 「防災気象情報について」 久保雅和  
「災害対策基本法の改正について」 林宏年
- 6 月 日本防災士会総会「香川県学校防災アドバイザー事業報告」  
学校防災アドバイザー派遣事業事前説明会
- 7 月 善通寺市西部校区自主防災会講演会  
スキルアップ研修「ため池ハザードマップについてその 1」
- 8 月 宇多津町自主防災リーダー研修  
水害に強い街づくり検討会  
防災士認証全国で 80,000 名達成
- 9 月 土庄町民生委員クロスロード研修  
香川地域継続検討協議会第 18 回勉強会  
気象台合同スキルアップ研修「新しいステージに対応した防災情報」
- 10 月 社会福祉協議会災害ボランティア研修  
水害に強い街づくり検討会事前説明会  
日本防災士会支部長会議  
四国行政評価支局相談会「一日行政相談会」  
スキルアップ研修「ため池ハザードマップについてその 2」
- 11 月 高松市新田町夕陽ヶ丘団地防災研修会  
高松市商工会議所「南海トラフ巨大地震を想定した災害図上訓練（DIG）」
- 12 月 スキルアップ研修「天気予報と災害」 NHK 高松放送局 気象予報士 中嶋望氏  
水害に強い街づくり検討会ヒアリング  
高松市屋島コミュニティセンターHUG 研修
- 1 月 香川大学法学部「防災と法」  
「障害者とともに災害を乗り越えるために」  
日本赤十字社香川県支部 1.17 追悼「神戸へ灯りを」  
香川県災害ボランティア連絡協議会「防災とボランティアのつどい」
- 2 月 防災士認証全国で 90,000 名達成  
四国行政評価支局丸亀会場『暮らしの総合相談』  
スキルアップ研修「災害医療と防災士その 1（トリアージを学ぶ）」  
四国行政評価支局「身近で出来る防災対策」  
高松商工会議所防災研修会「クロスロード」
- 3 月 水害に強い街づくり検討会



ため池ハザードマップ

現地調査



四国行政評価支局

一日行政相談

まんのう中学校

防災訓練指導

## 平成 27 年度

- 4 月 第 8 回香川県防災士会総会（会員数 198 名）  
勉強会「災害時のメンタルヘルス」  
香川カウンセリングセンター所長・臨床心理士（防災士） 浅海明子氏
- 5 月 香川大学ネクストプログラム「防災士の活動」
- 6 月 高松市国分寺北自主防災会地区防災計画協定書調印
- 7 月 災害時ボランティアリーダー養成講習
- 9 月 四国青年会議所防災ワークショップ  
築地コミュニティ防災講演会「災害に備える」  
国分寺南自主防災会防災講演会「災害に備える」  
災害時要配慮者支援セミナー
- 10 月 四国行政評価支局「一日行政相談」  
観音寺市幼保防災訓練  
日本防災士会スキルアップ研修 元南極観測越冬隊・理学博士 岩野祥子氏  
「南極女子・防災を語る！～地球環境・サバイバル・東日本大震災被災地支援・女性視点からの防災～」
- 11 月 シェイクアウト訓練参加（県内各地）  
多度津町自主防災会防災講演会「身近で出来る防災対策」  
三豊市防災士 HUG 研修  
防災士認証全国で 100,000 名達成
- 12 月 香川大学地域強靱化シンポジウム  
气象台スキルアップ研修  
香川県立盲学校 学校防災教育成果発表会
- 1 月 善通寺市防災フォーラム  
災害ボランティアセンター運営研修
- 2 月 善通寺市 HUG 研修  
防災気象講演会  
地区防災計画事前勉強会
- 3 月 防災とボランティアのつどい  
香川県防災士会議



善通寺市  
HUG 研修指導



国分寺北部校区

ハザードマップ作成支援

## 平成 28 年度

4 月 14 日熊本地震（前震）M6.5、震度 7

4 月 16 日熊本地震（本震）M7.3、震度 7（死者 225 名、負傷者 2,753 名）

### 4 月 第 9 回香川県防災士会総会（会員数 269 名）

勉強会「地区防災計画について」

香川大学 地域強靱化研究センター特任教授 磯打千雅子氏

第 1 回地区防災計画勉強会

防災士認証全国で 110,000 名達成

5 月 香川大学 熊本地震報告会

平成 28 年度土器川総合水防演習

6 月 学校防災推進会議

学校防災アドバイザー派遣事業事前説明会

香川県自主防災活動アドバイザー認定式

第 2 回地区防災計画研修会

7 月 香川大学教育学部 女子防災「もっと素敵にわかりやすく」

香川県自主防災アドバイザー事業（満濃町、善通寺市、緑造園）

三豊市防災マップワークショップ

8 月 三豊市高瀬町麻小学校街歩きマップ

9 月 福祉、防災講演会（満濃町）「地震に備える」

綾川町防災講演会「災害に備える」

香川県災害ボランティア連絡協議会

10 月 第 3 回地区防災計画研修会

四国行政評価支局「一日何でも相談」

- 11月 香川県民一斉シェイクアウト  
三豊市詫間町松崎自主防災会防災訓練  
愛媛県新居浜市泉川校区防災訓練（日本防災士会依頼）
- 12月 防災気象講演会  
第4回地区防災計画研修会  
岡山県高梁市福祉協議会 地域を守り創る研修大会  
防災士認証全国で120,000名達成
- 1月 気象台合同研修会「最新の気象情報の変化、ひまわり8号9号」「地域防災計画」
- 2月 土器川大規模水害検討委員
- 3月 スキルアップ研修『身近な防災資機材の理解と操作』  
丸亀市自主防災活動等連絡協議会 設立



善通寺西部校区  
防災訓練支援



三豊市立麻小学校区  
ハザードマップ作成支援



香川大学初ステッププログラム

防災士養成講座(2年次)

平成 29 年

4 月 第 10 回「香川県防災士会総会」(会員数 300 名)

基調講演「西日本大震災考」

香川大学 地域強靱化研究センター長 金田義行氏

全国の防災士認証者数 132,921 名(平成 29 年 7 月現在)

全国の日本防災士会会員数 8,577 名(平成 29 年 7 月現在)

香川県防災士会会員数 309 名(平成 29 年 10 月)

平成 29 年度総会



## 各支部及び部会の活動

### 東讃支部

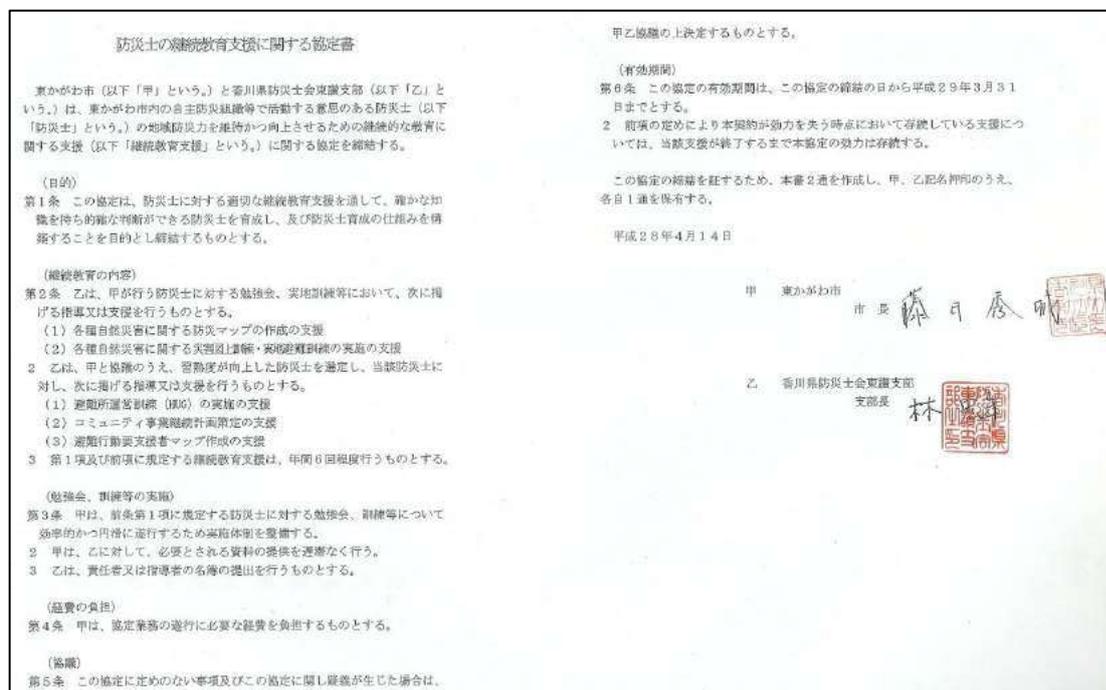
#### (1) 自立した防災士育成のための月例勉強会・役員会開催

～支部創立以来、月例勉強会・役員会を継続中(6年目)～

平成24年7月支部創立以来、毎月(平成27年度までは、本部の総会と忘年会のある4月と12月を除く)第4木曜日を中心に夜7時から2時間、支部会員勉強会と役員会を開催。常時2割から3割の会員が集まり、喫緊の課題等について議論し、会員のスキルアップと支部のレベルアップを継続中。

#### (2) 市町や地区等が実施する中核的自主防災活動への協賛

- ・防災士継続研修会(平成28年～)・・・東かがわ市
- ・防災力レベルアップ講習会(平成28年～)・・・三木町
- ・防災研修会、避難所運営マニュアル・地区防災計画策定支援・(東かがわ市、さぬき市、高松市、三木町)



防災士の継続教育支援に関する東かがわ市との協定書

#### (3) 自主防災活動に対するシームレスで継続的な対応・支援

支援協力要請があった自主防災組織等に対して、まず、東讃支部監修の「防災・減災を行っていくうえで必要な課題の発見方法と具体的な方策」(次ページ)に基づくヒアリングを実施して、減災ニーズを分析します。その後、必要な事業の流れをシームレスに提案し、東讃支部として継続的に対応・支援しています(さぬき市南川地区・志度地区、東かがわ市相生地区、高松市春日地区)。

(4) その他(防災関係機関との防災・減災に関する定期的イベント)

三木町まんで願(防災ブース)、東かがわ市地区土砂災害全国統一訓練、三木町多言語情報伝達訓練、DIG(さぬき市大川地区)などを対象とした、さぬき市古墳まつり(防災ブース)、屋島コミセン防災講座

		防災・減災を行っていくうえで必要な課題の発見方法と具体的な方策について										
		地区コミュニティ協議会・自主防災組織版 「人にやさしく災害に強いまちの見える化」に向けた工程表 監修：香川県防災士会東讃支部(2016)										
安全・安心の担保	種別	発見すべき主な課題	1 防災意識の醸成	2 防災意識の醸成	3 防災意識の醸成	4 防災意識の醸成	5 防災意識の醸成	6 防災意識の醸成	7 防災意識の醸成	8 防災意識の醸成	9 防災意識の醸成	10 防災意識の醸成
共助	1	災害発生時に自主防災組織が機能する体制ができていますか										
	2	住民が積極的に防災活動に参加しているか										
	3	地域住民に正確で分かりやすい防災情報の提供ができていますか										
	4	女性や高齢者、障がいのある人の意見が地域防災活動に反映できていますか										
	5	定期的に防災訓練を実施しているか										
	6	防災訓練の際に消防団など専門的な意見も参考にしているか										
	7	過去の訓練を検証し、適宜、見直しや新たな訓練の導入を心がけているか										
	8	災害時に自主防本部を、いつ誰がどこに設置するか決められていますか										
	9	自主防本部や各団の行動マニュアル(行動の取り決め)はできていますか										
	10	自主防本部での情報通信体制は確保されていますか										
	11	災害時に地域の情報を収集(本部へ報告)する方法は決められていますか										
	12	各種防災関係書籍(組閣台帳、防災資器材台帳、避難行動要配慮者(災害時要配慮者)台帳)は作成されていますか										
	13	過去の災害実績や土地利用などを踏まえた防災マップが作られていますか										
	14	地域住民の具体的な避難計画(避難場所・避難経路等)はできていますか										
	15	地域で避難する際のリーダーや声かけのルールが決められていますか										
	16	自主防本部で必要な防災用品が準備・保管されていますか										
	17	防災倉庫・資器材等										
	18	常時使用できる管理体制になっているか(複数人で鍵を管理するなど)										
	19	定期的な点検がされているか										
	20	食料・飲料水は、適宜更新されているか										
	21	初期消火										
	22	地域住民(役員等)は、地域の消防水利を把握しているか										
	23	地域住民(役員等)は、消火栓の使用方法を理解しているか										
	24	パケツリレーなど、地域の消火方法が周知されているか										
自助	25	建物倒壊時の負傷者救出のための道具は用意されているか										
	26	負傷者を救助所まで搬送する方法は決められていますか										
	27	防災について、家族で話し合いをしていますか										
	28	避難場所までの避難経路を決めていますか										
	29	家族が離れ離れになったときの連絡方法を決めていますか										
	30	非常持ち出し品を準備しているか										
	31	地域で発生しそうな災害を把握しているか										
	32	家の中の避難経路を確保しているか(物を置いていないか)										
	33	避難に関する情報の入手方法を把握しているか										
	34	隣近所とコミュニケーションをとっているか										
	35	自主防災組織の活動に参加しているか										
	36	自宅の前置化診断や耐震化の対応はできていますか										
	37	家具の転倒防止策を行っているか										
	38	寝室や子ども部屋に転倒しやすい家具等を置いていないか										
	39	緊急地震速報がでた場合の対応を理解しているか										
	40	地震が発生した場合の行動を理解しているか										
	41	地震ハザードマップ・ため池ハザードマップを理解しているか										
	42	創傷や排水溝を掃除しているか										
	43	雨どいに落ち葉や土が詰まっていないか										
	44	風の近くを居室にしているか										
	45	気象情報を日頃から注意しているか										
	46	土砂災害の前兆現象を知っているか										
	47	洪水ハザードマップを理解しているか										
	48	住宅用火災警報器を設置しているか										
49	防災用品や前震機能付きの家電を使っているか											
50	ブレーカーの場所や操作方法を知っているか											
51	消火器を設置し、使い方を知っているか											
52	119番通報の要領がわかっているか											
地域の危険な場所	53	電気コンセントを定期的に掃除しているか										
	54	がけ崩れの危険性がある場所はないか										
	55	がけ崩れなどが起こった場合に土砂が広がるおそれのあるのはどの範囲か										
	56	ため池や河川等がどこにあるか										
	57	防潮堤や河川堤防、水門の場所はどこか、状況は(老朽化・脆弱性等)										
	58	地盤が著しく低い場所はあるか										
	59	ため池決壊で浸水が想定されているのはどの範囲か										
	60	河川の河床より低い場所(天井川)はあるか										
	61	決壊しそうな(したことがある)河川はあるか										
	62	洪水で浸水が考えられるのはどの範囲か										
	63	ため池の護岸の場所はどこか、状況はどうか(老朽化・脆弱性等)										
	地域内の安全な場所	64	埋立地や湿地、沼地はないか									
65		土地が陥没しそうなところはないか										
66		大雨が降った場合に、浸水しそうな(浸水したことがある)場所はどこか										
67		地震で倒壊の可能性があるブロック塀や電柱、街灯、大木などはないか										
68		マンションやアパートなどのガラスが割れて、飛散しそうな場所はないか										
69		地震で高架道路等から通行車両が転落しそうな場所はないか										
70		マンホールや貯水槽のフタは大丈夫か(人が落下しそうな場所はないか)										
71		過去に災害が発生した場所があるか										
72		危険物や化学薬品等を扱っている事業所はないか										
73		各種災害から安全な避難場所が確保できるか										
74		各種災害から安全な避難経路が確保できるか										

注:表の中で黄色の部分には、「発見すべき主な課題」に対する答えが「はい」となっており、詳しい内容になります。

## 高松北支部

### ●防災訓練

新塩屋町コミュニティ協議会で平成 22 年から防災訓練・避難訓練を実施してきた。平成 27 年からは、津波避難訓練等を小学校と共同で 9 回実施。そのうち第 3 回及び第 5 回は、要援護者を含めた避難訓練を実施した。さらに今後はコミュニティで地区防災計画の策定予定である。



## 高松南支部

平成 24 年度に高松南支部を設立し、地域中心に活動している。平成 28 年度にかけて支部内の各コミュニティを中心に、「子供会の防災を考える」や企業を含めた啓発活動、講演会、HUG、状況予測型図上訓練などを実施してきた。また地区防災計画を策定し、緊急時救出訓練等を実施。PDCA を行い計画の見直し、検証を実施している。



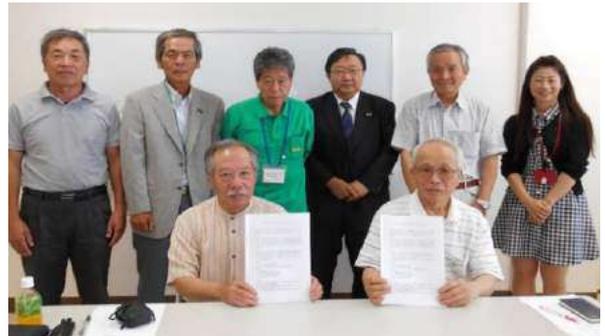
## 高松西支部

支部内の各コミュニティと連携し継続した活動を行っている。

### ・国分寺北部校区コミュニティ協議会

国分寺北部校区コミュニティ協議会に協力して平成 22 年から毎年校区全体の防災訓練の企画、運営をしており、国分寺北部校区自主防災組織連絡協議会に現在 8 人の防災士が役員の中で防災・減災活動をしている。

また、国分寺北部校区コミュニティ協議会と香川県防災士会と業務委託基本協定を平成 27 年 6 月 29 日に締結して、DIG、まち歩き、PC 入力等の業務を行った、国分寺北部地域防災マップが平成 29 年 3 月末に完成し全世帯に配布した。



### ・弦打校区コミュニティ協議会防災部会活動

#### 【校区全体防災訓練】

平成 24 年～28 年:毎年地区・小学校合同で開催し、300 名～1100 名が参加、継続実施。

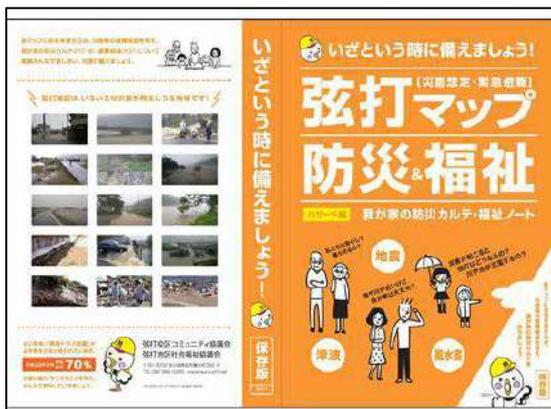
#### 【防災訓練以外活動報告】

平成 24 年:要援護者マップ作成(毎年 2 回更新)

平成 25、26 年:小学校児童に「もしもカード」作成、HUG 研修会、自治会毎防災マップ作成、子ども夏祭りで防災ゲーム、災害伝言ダイヤルを用いた高齢者要援護者の情報伝達訓練

平成 27 年:弦打コミュニティ継続計画作成・提出

平成 28 年:防災・福祉マップ(ハザード編)小学校・幼稚園・保育所他に作成・配布(300 冊)避難所運営マニュアル作成開始、子ども防災キャンプを実施また「弦打マップ防災&福祉(ハザード編)」冊子作成



## 坂出宇多津支部

当支部は年間のメイン行事である坂出市における「坂出市震災対策避難防災訓練」、宇多津町における「宇多津町自治会連合会防災訓練」に毎年参加依頼があり、訓練内容の一部を防災士会に任されています。そうした活動が、行政機関との太いパイプとなっており、相互において支援するという関係で成り立っています。

その一環として、年度の総括である当支部総会の開催時に、坂出市の危機監理室にお願いし、行政の動向や防災への取り組みについて講演をいただいております。

そのほかにも、社会福祉協議会や自主防災組織からの研修会や訓練参加の依頼があり、地域における防災士会としての存在感をアピールできていると自負いたしております。

当支部会員には、坂出市、宇多津町において地域の重鎮として活動されている方が多く、自らの組織を活性化し、積極的に防災訓練を実施していただいております。いざという時にも、地域住民が迷わず行動することができるよう、組織づくり、意識づくりに取り組んでいただいております。

最後に、今後起こりうる可能性の高い南海トラフ地震、また、毎年どこで起きるか予想もつかない自然災害に備え、いざという時に、実際に動けることができる人や組織を育成・整備しなければなりません。机上論ではなく、自信と勇気をもった我々防災士は、坂出宇多津エリアにおいてコアとなり防災活動に取り組んでおります。



傷病者搬送訓練の様子  
(宇多津町自治会連合会防災訓練より)



ダンボール間仕切り訓練の様子  
(坂出市震災対策避難訓練より)

## 中讃支部

中讃支部の結成は、平成 24 年 10 月 6 日、会員 22 名で発足しました。現在は、丸亀市、善通寺市、多度津町、琴平町及びまんのう町の 2 市 3 町の会員 83 名の在所帯で活動しています。この記念大会開催時には、5 周年を迎えます。継続実施している活動状況の一部を報告します。

### 善通寺東部小学校の防災授業

防災教育に関する授業参観、自主防災訓練を体験することで、災害に適切に対応する能力を養うと共に学校、家庭、地域の連携を深めるとともに地域社会の安全活動に進んで参加、協力し貢献できることを教育のねらいとして毎年 11 月に、全学年 12 クラス対象で、学年ごとにテーマを設定し、防災士が主導した 45 分授業を平成 25 年から実施しています。そして、1 ヶ月後には授業を受

けた子供たちから感想文が授業担当防災士に届けられるのが、楽しみとなっています。保護者もその授業を参観し、授業終了後、地区自主防災会、看護専門学校、消防団員も含めて自主防災訓練を実施します。



### 「丸亀おしろまつり・愛の広場」での啓発活動

丸亀おしろまつりは毎年5月の連休に開催され、平成27年から防災コーナーとして出展し、市民各層への防災啓発を実施しています。毎年テーマを設定し、展示内容を変えると共に、防災相談コーナーの開設、防災チラシ、災害用防災備品の展示、説明を実施しています。また、愛の広場スタンプラリーに協賛し、子ども達への防災クイズ・解説と景品の提供をして、イベントの活性化を図っています。



### 「多度津健康フェスタ」での啓発活動

多度津健康フェスタは、毎年10月に開催されています。防災PRの一環として参加し、防災士の活動PR、町民への防災意識の高揚等のための啓発活動を実施しています。防災啓発ポスターの掲示（子どもの事業への参加、記念品の提供）他に内容は、ほぼ丸亀おしろまつりに準じて開催しています。



## 西讃支部

平成 27 年に自元自治会より要請を受け啓発の防災研修を実施いたしました。平成 29 年度には更に隣接の自主防災会より依頼があり、防災研修を予定。今回は応急手当の仕方についても検討中。

西讃支部は設立して、3 年 6 ヶ月足らずの小規模組織です。しかし、これまで多くの会員メンバーは各種の専門的研修に積極的に参加し、今後の実践的防災指導に備え研鑽を積み、地域に必要とされる潜在的な活動力を高めてまいりました。そして、防災意識や啓発は勿論の事、各種の災害対応訓練についても地域連携の調整により展開努力をしてまいります。



## 女性部会<Lady かがわ>

「女性の力を発揮できるような部会を作ってほしい」久保会長からの要請が当部会発足のきっかけでした。検討を始めた平成 24 年時点での女性会員は十数名しかいない状況でした。数名の女性会員に声かけをして、まずは、どのようなことをしてみたいかについて話し合うことから始まりました。そして女性部会の愛称を検討し、<Lady かがわ>と決まりました。お洒落とは縁遠い防災活動ですが、女性らしく楽しくやっていきたいという思いから女性部会専用のポロシャツを作ろうと、ロゴマークも考えてポロシャツの腕の部分にプリントしました。正式に女性部会として発足したのは平成 26 年 4 月です。その後の主な活動としては、平成 27 年には一泊二日の避難生活体験キャンプ、平成 28 年にはデイキャンプとして小学生を対象に防災工作と非常食クッキングを計画、実施しました。平成 29 年には、防災布芝居（稲村の火）が完成し、子ども対象の啓発活動にも力を入れていこうと考えています。

私たち女性部会は、女性ならではの細やかな心配りや日常の中にあふれている「気づき」をヒントに今後も活動を続けていきます。



## カレッジ部会(香川大学防災士クラブ)

発足は平成 26 年 2 月、平成 29 年 6 月 20 日時点での在籍者数は 30 名で、全学部生によって構成されています。学生防災士クラブとは、大学一年次に防災士養成講座を受講し、防災士資格取得試験に合格した学生のうち、希望した香川大学生から構成される団体です。

普段の活動としては地域の防災訓練への参加、小学校での防災訓練への参加、防災に関する講座や防災キャンプなどを行っています。また昨年からデジタル無線機を導入し、普段の訓練でも実際に使用して迅速な情報の共有を図っています。

今まで行った活動の中で特に大きな取組として、熊本大学と連携して取り組んでいる熊本支援ボランティアが挙げられます。この活動は、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震で被災された方々への支援をすることを目的に、同年 7 月と 10 月の 2 回にわたって、熊本県益城町や南阿蘇村などでボランティア活動を行いました。活動内容としては、がれき撤去や炊き出しのほかに、被災した子供たちと一緒に遊んだり、現地で復旧作業に携わる人々へ貸し出すアパートの清掃を行ったりなど様々な活動を行いました。また平成 29 年 8 月には、益城町の仮設住宅を訪問し、手打ちうどん作りや子供たちと遊ぶ活動を行いました。



### レスキューサポートバイク部会(廃部)

香川県防災士会が発足して間もない平成 21 年 12 月、丸亀市で行われた忘年会に於いて、バイク好き 5 人の雑談の中、レスキューサポートバイク (RB) という災害時に 2 輪の機動力を持って、被災地支援活動を行っている団体が有る事に話題が集中した。しかし、我が香川県にはまだ設立されていないことが判明した。そこで、他県の RB の協力を得て、この 5 人で立ち上げ、最終的に日本赤十字社の奉仕団に登録し平成 22 年 7 月活動を始めた。

初代部長に土居哲男、事務局長に阪入剛裕が就任、活動範囲を広げるために県や各市町にアピールを続けた結果、その年の県の総合防災訓練に初参加する事ができた。その後、TV、新聞、ラジオ等メディア登場によって広報も進み、県民ライダーの参加人員は増えていったが、防災士会の RB 部会としての活動は減少した。平成 29 年 6 月の RB 部会の通常総会において廃部を発表し、活動を停止した。

しかし近年は、我々が投じた一石がきっかけとなり、県下でも複数の団体がバイクの特性を生かした活動を展開している。いざ有事に際しては率先して活躍される事を願っている。



## 報道関係取材等

平成22年度		
中讃CATV		気象災害に関する防災番組(一年間継続) 地震、台風、集中豪雨、濃霧、瀬戸内の強風、大雪等
平成23年度		
宇多津FMサン		「防災士について」
高松FMかがわ		「香川県防災士につて」
NHK高松		「防災士を増やそう」
岡山放送		防災士会被災想定「実践避難所運営訓練」
西日本放送		防災士会被災想定「実践避難所運営訓練」
四国新聞		防災士会被災想定「実践避難所運営訓練」
平成24年度		
瀬戸内海放送		「阪神大震災その後」
四国新聞		「香川の減災シリーズ、減災に向けて自分、地域で出来ること」 「人生二毛作」
FM 香川		「防災士について」
西日本放送		ラジオ生放送出演「学校防災アドバイザーについて」
NHK高松		「地域で出来ること」
平成25年度		
四国新聞社		「防災士の活動」
西日本放送		「身を守るには」
山陽放送		香川県広報番組(県政番組)、取材
平成26年度		
NHK高松		防災インタビューシリーズ「香川県防災士会」 第1回「防災グッズ」 第2回「家具の固定と耐震化」 第4回「大雨に備える」
四国新聞		「地域の減災について」
山陽放送		香川県広報番組「減災に向けて」
岡山放送		香川県広報番組「シェイクアウト」
平成27年度		
NHK高松		防災インタビューシリーズ「香川県防災士会」 第5回「突風対策」 第11回「夏の集中豪雨に備える」 第13回「広島のと砂災害を考える」 第24回「香川県の防災士」 第25回「夜間の地震の備えと注意点」 「香川の防災について」 香川防災ラジオ「巨大地震にどう備えるか」
西日本放送ラジオ		「秋の防災特番」「先人に学べ、生き抜く力」 「香川県防災士会の活動」 「春の防災特番」
四国新聞		「香川県防災士会の活動」 「香川県防災士会の活動」
朝日新聞		「香川県防災士会の活動」
四国放送		「香川県防災士会の活動」
平成28年度		
FM かがわ		「知って学んで、伝えよう、いま私たちに出来ること」
NHK高松		「防災士の役割」 「熊本地震・災害時の人材育成」

## 歴代役員名簿

### 平成19年～20年度

会 長 久保雅和  
副 会 長 土居哲男、井上耕治  
理 事 岩崎富夫、富家洋三、田中浩一、東原博志、山本保太郎  
会 計 寺島寛  
監 事 白潟 猛

### 平成21年～22年度

会 長 久保雅和  
副 会 長 土居哲男、井上耕治  
理 事 (高松地区)東原博志、吉井隆洋、葛西泰紀、(坂出地区)富家洋三、阪入剛裕  
(丸亀地区)岩崎富雄、山本保太郎  
会 計 寺嶋 寛  
監 事 白潟 猛、高橋真里

### 平成23年～24年年度

会 長 久保雅和  
副 会 長 土居哲男、井上耕治  
理 事 (高松地区)吉井隆洋、東原博志、岡 重範  
(坂出地区)富家洋三、北山定男、(丸亀地区)岩崎富雄、山本保太郎  
会 計 寺嶋 寛  
監 事 白潟 猛、高橋真里  
部 会 長 (RB)阪入剛裕

### 平成25年～平成26年度

会 長 久保雅和  
副 会 長 土居哲男、井上耕治  
理 事 林 宏年、大畑光一郎、多田邦夫、和田雅和、本多秀司、北山定男、米澤量  
大川孝治、岩崎富夫、阪入剛裕、岡重範、今岡幹典、与田勲、中村隆  
事務局長 高橋真里  
会 計 奥村里々子  
監 事 白潟 猛、山本保太郎  
支 部 長 (東讃)林宏年、(高松北)大畑光一郎、(高松南)多田邦夫、(高松西)和田雅和  
(坂出)本多秀司、(中讃)米澤量、(西讃)大川孝治  
部 会 長 (RB)阪入剛裕、(カレッジ)鏡原和也、西脇大祐、(郵便局長)大西功、(女性)高橋真里

### 平成27年～平成28年度

会 長 久保雅和  
副 会 長 多田邦夫、井上耕治  
理 事 今岡幹典、岩崎富夫、大福猛康、大西稔、田口大作、中村隆、福江浩、松岡太、与田勲  
支 部 長 (東讃)林宏年、(高松北)大畑光一郎、(高松南)多田邦夫、(高松西)和田雅和  
(坂出)本多秀司、(中讃)米澤量、(西讃)合田唱三  
事 務 局 高橋真里(事務局長)、石橋勇人(NPO設立検討担当)  
会 計 奥村里々子  
監 事 友國和俊、中村啓二  
相 談 役 土居哲男  
部 会 長 (RB)阪入剛裕、(カレッジ)岡田 紘明、(郵便局長)横山雅彦、(女性)高橋真里

### 平成29年～平成30年度

会 長 久保雅和  
副 会 長 多田邦夫  
事務局長 高橋真里  
理 事 今岡幹典、石橋勇人、奥村里々子、大野泰平、高橋英雄、中村 隆、福江浩、松岡太、矢本賢、与田 勲  
会 計 奥村里々子  
監 事 友國和俊  
支 部 長 (東讃)林宏年、(高松北)大畑光一郎、(高松南)田口大作、(高松西)和田雅和  
(坂出)本多秀司、(中讃)近藤一夫、(西讃)合田唱三  
相 談 役 白木 譲、土居哲男、長谷川修一  
部 会 長 (カレッジ)岡崎和希、(郵便局長)長谷川浩一、(女性)高橋真里

## 記念誌発刊にあたり

香川県防災士会設立 10 周年の節目の年に、これまでを振り返りその軌跡を整理しました。紙面に限りがある関係で割愛したものもある点お許しください。

たかが 10 年、されど 10 年。会員の皆様が一方ならぬ情熱を注いで現場で活動された地道な活動の記録です。様々な立場や思い入れを持った皆さんの貴重な活動記録だと感じました。定年を迎え、時間に少しゆとりができた日常の中で、自分にできる具体的な社会貢献の一つと位置付けて地域のために活動された方がおられます。また、働きながら多忙な仕事の合間を縫って休日のボランティア活動に参加された方もおられます。一方、女性の視点で子供や高齢者の目線に立った活動を、仕事や家事を効率的にこなし、時には伴侶の理解と協力を得ながら継続されている方も。さらには継続的に開催される夜の勉強会に自身を高めるために熱心に参加される方等々。

今回の記念誌の編集作業に携わる中で、皆様の様々な活動の場面が想起され心が熱くなりました。共通するのは金銭や何らかの見返りを期待するものではなく、まさにボランティア精神そのものが軸にあると感じ入りました。

10 年の節目はスタート地点だと思います。相田みつを氏の言葉をお借りするならば、皆さんの活動実績の「おかげさん」の記念誌です。今後の活動の一助になればと思います。そして「いまから ここから」さらに謙虚に、さらに勉強して地域に必要とされる防災士を目指して精進しようではありませんか。

最後になりますが、本記念誌発行に当たり御祝辞を賜りました関係各位、原稿作成に当たりご協力いただいた各支部、部会の皆さん及び昨年 11 月に組成して以来、多忙の中編集会議に参加いただいた 10 周年記念行事実行委員の皆さん、改めて感謝申し上げます。有難うございました。

平成 29 年 11 月

記念行事実行委員長	井上 耕 治
実行委員	石橋 勇 人
	奥村里々子
	久保 雅 和
	児 玉 賢 二
	齋 藤 弘
	佐々木幸二
	高橋 真 里
	西澤 一 弘



作成 香川県防災士会 10周年記念行事実行委員会

発行 平成 29 年 11 月 3 日 (2017 年)